



発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 石川 富 康
 編集人 中平等 新 一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◇ 3月13~14日 雪上技術研修会・講習会（御岳）

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>

八ヶ岳の春

PHOTO 中平等新一



初春

新年に当りて

地球環境問題に関心を！！

会長 石川 富 康

2010年、新年明けましてお目出度うございます。本年は環境問題に付いて考えて見ました。

私達の住んでいる地球は年々温かくなり氷がどんどん無くなっています。放置すると近い将来大変な事になるでしょう。地球全体で3度下げなければいけないと云われてから久しいが、なかなか実行されません。

人間の体温で考えると普通の人は36度前後ですが、3度上って39度になると立っていられません。気温も水や雪が0度以上なら溶けてしまいます。その大半が(CO2)二酸化炭素の増大と云われています。この温暖化のためか、今、ヒマラヤでは何百もある氷河湖が危険にさらされています。いつ決壊するか判りません。ヨーロッパ、アルプスでは大きな氷河が毎年10メートル以上後退しています。

北極点では、氷の上でなく船で通過できるようです。数年前まで真っ白だったキリマンジャロも、南面の氷河が消えて真っ黒になっております。シベリヤの永久凍土もどんどん溶けています。

私達も何か出来るはずです。今すぐ行動を起こさなければ、後の社会に大きな物を無くする事と思います。幸い本年10月にはCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が、名古屋を中心に愛知県下で開催されます。私達も大いに関心を持ちましょう。

当岳連も自然保護委員会もあり活用して下さい。指導員会も充実させて活発な行動を期待しています。また、若い人を纏めて色々な行動を行うよう頑張ってくださいと思います。

南山で救助技術講習会開く

縦走路や岩場の負傷者救助

平成21年度救助技術研修会・講習(検定)会が、11月28日(土)・29日(日)の二日間、豊田市・南山の岩場に於いて実施され、指導員、受講生48人が参加した。

一日目、指導員対象の研修が雌岩を使って、各ポイントの研鑽やチームレスキューを実施し、終了後は、宿舍の岡崎市「龍溪院」に於いて反省会と懇親を行い、意志の疎通をはかった。

二日目、7時30分から現場で準備と講習生の受付が行われ、8時30分講習会を開始した。

最初に、高橋遭対委員長が「救助技術とは救急処置と搬送技術、そして救助活動中の安全確保を図る技術で、安全性・確実性・迅速性が求められます」と説明し、つづいて勝野指導委員長が講習に当たっての注意事項を述べた。また、岳連を代表して中平等議長が「今日は天候に恵まれました。指導員の方には昨日から準備して頂いております。どうか

精一杯技術を身に付けていくて下さい」と挨拶。その後、縦走コースと岩場コース(初級・中級)に分かれて実施された。

縦走コースは、駐車場で3班に分かれ「縦走路における救助と搬送」をテーマに、装備や補助ロープの活用方法、ロープ、ザック、雨具などを利した搬送方法を学んだ。また、斜面を使って吊り上げ吊り下げ救助法、ロープワークと多岐に亘って指導を受けた。他方、岩場コースは「アンカーの構築と懸垂下降、自己



講習会に参加したみなさん

脱出と介助懸垂」を主に、雌岩と雄岩を使ってアンカーの取り方と加重分散、背負いや抱え込みによる介助懸垂と引き上げなど、指導員、受講生が一体となって熱心に行っていた。

講習は15時終了し、参加者から「丁寧に教えてもらい大変勉強になった」また「今日学んだ事を会に持ち帰り、みんなに伝達したい」と言う声があった。指導部から「救助者は、何よりも自らの安全確保を第一に考える」「自信のないシステムは絶対用いない」などの指摘があり、最後に「救助のための搬送は、傷病の症状を悪化させないようにスピードが要求されます」と結び、15時40分講習会は終了した。

講習会に参加して

確保技術を身につけないと救助できない事を実感

上級指導員 山本 幸久

11月28日に指導員研修・29日に救助講習会と、二日間参加しました。

28日の指導員研修では、9月に日山協・無雪期レスキュー1講習会に参加された高木・

2010年度指導員会方針

魅力ある指導員を目指して

指導委員長 勝野 準生

昨年度の指導委員会の活動は、組織としての指導員会体制の整備と指導員の指導実績の把握を大きな柱として進めてきました。とりわけ指導員それぞれの指導実績をお知らせする事が急務と位置づけ取り運んできました。

この取り組みの中で、ややもすると指導員の活動領域が狭くなり、本来の魅力ある指導員として活躍する機会が少ないので、という危惧が感じられました。

指導員と指導委員会の直接的なつながりが岳連の諸事業に限定されているにせよ、あまりにも指導員の参加者が固定化されていることや年々減少していることは事実です。

併せて指導する「形」に多くの時間が費やされ、本来の指導する事の意味や喜びに結びつけられない組織運営は指導委員会の力不足です。

他にも社会的な状況や指導員総体の高齢化等色々な原因が考えられますが、これらの現実を受け止め、先ずは原点に立ち返って何より指導員としての魅力をキーワードに本年度の方針を確立して行きたい

と思います。

技術は進歩しています。自分の技術も実践の場で検証し、スキルアップしましょう。具体的には日山協や登山研修所等の全国レベルの指導員研修にどんどん参加し、愛知の仲間と検証しながら伝達、講習で本当に自分の力にするプログラムを組み立てて行きます。次に普及活動です。

従来の「勉強会」や各種講習会は、更にテーマを絞り込み、基本を大切に実践的に解りやすい内容に組み立てます。そして将来の指導員づくりです。これは指導員会だけの課題ではありませんが、いずれにせよ組織としての長期展望がなければなりません。指導員に必要なものは何かを問いつつ、所属山岳会と供に次世代づくりに取り組みます。

最後になりましたが、指導員資格更新にあたっては、昨年度より更に厳格な管理運用が各岳連に求められています。規約に則った自己管理をお願いします。

石川両氏の指導の下で行われました。

今までの私が知っている救助講習では、搬送技術がメインで行われておりましたが、今回の指導員研修では、自らの安全確保を第一に考え、3つのS（安全性・確実性・迅速性）の正三角形を大きくする努力が必要であり、そのためには、救助を行う際に必要な確保技術を指導員一人ひとりが身につけなければ救助は出来ないということを実感しました。また、チームレスキューの流れに参加した指導員全員が体験できたことは、良い経験になりました。

翌日の救助技術講習会は、縦走・岩の班に分かれて、指導員が受講生に講習を行います。講習の開始と最後に、指導委員長の勝野さんより「山は連れて行く・貰うのではなく、一緒に行く」ということを強く言われ、私も日頃から同じような考えで、自分の山岳会の中でも言っていたので、とても共感しました。今回参加した講習生にもそのことが伝わったのか、熱心な人が多く、充実した救助講習会を行うことができました。私が担当した岩の救助講習の中では、テキストの内容を覚

えてもらうのではなく、「なぜ、それをやるのか」を考え、納得してもらう事に重点をおいて行いました。本当は、救助に遭遇しなければ一番良いことだと思えます。しかし、事故は突然やってくるため、講習会ではしっかりと考え、納得して行動する事が重要だと思えます。また、救助技術は、確保技術・登山技術など、登山に必要な技術・知識を習得して、初めて行うことのできる技術だと確信しました。

今後も、愛知岳連で、様々な講習会が行われますが、全ての講習会が、救助技術につながるの、指導員も、講習生も参加して良かったと思える講習会にできるように努力したいと思えます。

(豊田山岳会)

機会あるごとに参加

やまびこ山想会

高橋睦代

11月29日、愛知岳連の救助講習会に参加しました。7時30分南山に到着、受付を済ませ岳連の方の挨拶、説明などがあり、天候しだいで講習が早目に切り上げる事もあると言われ、早々に各班に別れ講

習会が始まりました。

私が受けた縦走路における救助と搬送のコースでは、午前中に負傷者の搬送、午後よりロープを使った引き上げ救助の方法を教わっていただきました。負傷者の搬送はシンブルに背負って搬送、2、3人で搬送する二人組み手法、ヒューマンチェン法などあります。また、ザックや雨具、ツエルト、ストックなど使用した方法もありました。

倒れて動けない負傷者を背負う方法は、負傷者の横に添い寝をするみたいになり、自分の足と腕を使って同じ向きにころがり自分が地面側、負傷者が自分の背中側になり重なるようになります。それから自分の膝をたて腰をあげ、その次に腕を突っ張り上体を



岩場コースでの講習

あげていきますが、私はそれがまったくできなくて、負傷者に押さえ込まれた状態で手足をバタバタさせるだけでギブアップしてしまいました。ロープを使った吊り上げ救助では、支点は一ヶ所より多数作ると加重が分散できずに吊り上げができると教わりました。最初に指導員の方が手本を見せていただき、そのあとで実践してみました。ロープワークなど分かっていたつもりが、いざやってみると忘れていたことが多く、日々の練習が大切だと実感しました。

今回、この講習会に参加したいへん勉強になり、一回だけの講習では修得できるものではないので機会がありましたら、また参加して技術を自分のものにしていきたいと思えます。

岳連親睦スキー大会

と き 2月7日(日)

と ころ イトシロスキー場
賞品多数あり、奮って参加して下さい。

※スノーシューだけ楽しむ人も歓迎します。

・ 問い合わせ 関谷 雅樹

☎ 0566-74-9177

名古屋駅前の山とスキーの専門店

駅前アルルス

〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目11-27

(第2トヨタビル東館1F)

TEL 052-565-1417

安心して選べる三河地区
のプロショップ

七ヶ宿から
エキスパートまで



登山用品豊富!

穂高

〒448 刈谷市検町1-13

TEL0566(23)8611

定休日/火曜日

営業時間/10:00~20:00